

●長崎県公立大学法人 令和6年度 第4回理事会 議事録

日時	令和6年6月11日（木）13：50～14：50
場所	シーボルト校特別会議室
出席者	坂口理事長、浅田副理事長(学長)、井上専務理事(事務局長)、森理事
配付資料	【資料1】 令和5事業年度 事業報告書（案） 【資料2】 令和5事業年度 財務諸表（案） 【資料3】 令和5事業年度 財務諸表（案）の概要 【資料4】 令和5事業年度 決算報告書（案） 【資料5】 当期総利益について 【資料6】 長崎県立大学の現況について 【資料7】 長崎県立大学関連の新聞記事
議事	【審議事項1】 令和5年度決算案について ○事務局から資料1～5に基づき、事業報告書、財務諸表及び決算報告書案について説明があり、事務局案のとおりとすることで承認された。 監事・会計監査人合同会議に提出したのち、6月28日開催の理事会承認後、6月末までに県へ提出する旨、事務局より説明があった。 （意見・質問等） ・会計基準の改訂はどのようなものか。 ⇒国公立の大学法人に適用される企業会計にはない特殊な会計基準の廃止に伴う臨時利益の増。 ・受託研究・共同研究等の受入が当初見込みを下回ったとあるが、共同研究の案件自体が少なかったのか、大学側の受入体制の問題で受け入れできなかったのか。 ⇒直近の比較的受入が多かった年度の平均をもとに計上した予算に対して、実績が下回ったことによるものであり、体制の問題で受入ができなかったわけではない。 ・授業料の減免対象者としては、どのような学生があるのか。 ⇒収入区分に応じた減免のほか、留学生や社会人の大学院生などが対象。 ・共同研究・受託研究の受入件数が減少したということは、県立大学の魅力が下がっているということではないのか。 ⇒受入件数の増減の要因として、共同研究・受託研究を受けている教員の採用・退職による部分が大い一方、共同研究・受託研究を受ける教員がたくさんいるということが大学の魅力であるとも考えられるので、ご指摘は受け止めたい。

【報告事項1】長崎県立大学の現況について

○事務局から資料6に基づき、職員・学生数、就職状況、県内就職率等の現況について説明があった。

（意見・質問等）

- ・県内就職率だけで議論するのではなく、県内定着率（県内就職者数／県内出身者数）も出して、その数字が伸びているのであれば積極的にアピールすべきだと考える。
- ・トレンドとしてどうなのか、予算に対して実績がどうだったのか、他の公立大学と比較してどうなのかということの説明がないと、前期の実績として良かったのか悪かったのかわからない。
- ・KPI になる数字を何にするのかしっかりと定めて、トレンドがわかるような資料を後日提供してはどうか。